



原田議員

問

- 行政改革への取り組みについて伺う
1. 「効率の高い行政運営の推進」とは
 2. 「財政の健全化」にはどう取り組む

質問 平成19年度予算一

般会計は、前年度当初予算対比で13%減という緊縮予算となっている。編成にあたっては、財政改革路線を強化し、行政のスリム化・効率化を一層徹底するとしているが、10月に策定された行政改革大綱について基本となるところはどのようなものか。

町長 行政改革の柱のうち、「効率の高い行政運営の推進」では、役場の組織の見直しは優先順位の高いものと考えている。職員数は平成22年4月時点で現在より12名減の173名を目標とする。「財政の健全化」については、新聞報道で、町民一人当たりの起債残高は71万円（県下一）という指摘もあったが、世代間の公平

を期するため起債を活用し、てくるものと思われる。町長 19年度予算は基本的に支出の削減という方向で編成したが、この方法は町の資源を活用するような発展には結びつかない。これからの役場は成果を求める体制になるよう流れを変えていかなければならない。そのため、課を横断した体制、組織のフラット化を図りたい。

質問 行政改革大綱は、当初、外部の識見者を委員に加えた改革検討委員会を作り、合意を図りながら策定していくということであった。行政外部からの意見を今後どのように反映していくのか。

町長 6月に有識者等を委員とする行政改革推進委員会を設置し、行政改革大綱の取組について意見提言を頂いていく予定。

質問 2年後の静岡空港の開港以降は商工観光分野を含めて様々な行政需要への対応が必要になるものと思われる。当地のこれからのまちづくりは、「行政改革」による役場組織の横の連携に掛かっ



平成21年3月に開港される富士山静岡空港イメージ

答

1. 役場の組織の見直しは優先順位は高い
2. 歳入規模身の丈に応じた財政運営を目指す

質問 投資的経費は、産業の振興、地域の振興に結びつくような工夫が必要である。総合支所の建設にあたって木造建築が採用されないことは残念。木造建築なら地元産の木材の利用、製材から建設まで地元の業者での対応が可能等々のメリットを行政として取り上げるべきではなかったか。

町長 総合支所建設は、行政の拠点としての機能、防災施設の充実、資金面等総合的に判断して決めたものである。鉄骨作りではあるが、部材は木を使うことを考えている。

町長 公共経営というものは、成果を出すのは住民というのが大前提にある。今はまだ、合併に伴う様々な調整過程にある新聞報道もあったが、本庁、時期にあり現在の課の体制は一定の期間は必要だという認識をしている。

質問 19年度予算は25%の、成果を出すのは住民というのが大前提にある。今はまだ、合併に伴う様々な調整過程にある新聞報道もあったが、本庁、時期にあり現在の課の体制は一定の期間は必要だという認識をしている。

町長 行政効率の観点のみで組織再編はすべきでない。将来10年後の職員数は140人程度と想定しているが、職員の人数に合わせたより効率の高い体制を組んでいかなければならないと思っている。

質問 合併後の山積している新町のまちづくりの課題への対応として、組織をスリム化して人材を輩出し、専門的に課題に取り組むスタッフチームを作ることも方策ではないか。

町長 住民のための、町の活性化のための住宅で、計画変更すべきかどうか議論を深めていきたい。



鈴木議員

問

行政の無駄をなくして、誰もが住みたくなる町づくりを

質問 行政の無駄を無くし、子育て支援・くらし応援を。

①乳幼児医療費補助の拡充を。所得制限撤廃に50万円、小学校卒業まで引き上げに60万円あればできる。無駄を無くせば19年度予算でも充分可能。島田市に負けない子育てしやすい町づくりをすべき。

②乳児相談、健康検査の会場が合併で交代になり「赤ちゃん連れで遠い会場への運転は怖い」との声が寄せられる。かけがえない大切な命を守るために、合併前の2会場での実施を。

③耐震家具固定補助（1台5千円、1世帯2万5千円）の対象を65才以上だけでなく子育て世帯や障がいを持つ人の世帯にも広げること。高齢者世帯だけで千世帯あり2千510万円必要と言うが、予算は150万円しか取っていない。予算増やし対象の拡大を。

④大鉄と交渉を進めて

1日も早い全町的足の確保を。その間、旧中川根で実地していた患者輸送サービスやバス不走行地区への無料乗車券配布を文化会館へシャトルバスの運行を。

町長 ①若者定住策として否定するものではないが経費を要する。最適な施策かの検討や全町的な理解、予算配分が必要。

質問 所得制限の所得はいくらか。親の気持ちを考えたのか。

町長 外れるのは7、8人。所持のある人から頂くのは必要。補助拡大も



風景授業小本



診療児乳

簡単に手を付けるものではない。

②集団の中での目線も必要なので会場までの時間はご理解を。

③予算との兼ね合いで子育て世帯や障がいのある方へも検討する。

④患者輸送は考えていない。福祉タクシーを急ぐ。シャトルバスは検討課題。

質問 「福祉タクシーは最優先。18年度中にやる」と言った。先延ばしは許されない。いつまでにやるのか。

町長 今年10月実施を考えているが明言はできない。時間的余裕はないの

で頑張る。不走行地域への無料乗車券は総合支所があるなど状況が違うので議論が必要。

質問 役場に行くだけにバスを利用する訳ではない。公平にやるべき。

次に、楽しいごみ減量・循環の町づくりについて、バイオマスタウン構

想は木質ペレットを進める前に生ゴミの堆肥化や、関心のある人を募

ってグループの育成に力を入れるべき。町指定ごみ袋40万枚もの購入はごみ減量化に逆行し資源の無

駄使い。商店のレジ袋（有料化して）や紙袋でも出せる様にしてごみ減量化の徹底を。

町長 バイオマスタウン構想は木質に限らず生ゴミの堆肥化も含む町全体のバイオマス利用計画。無理のないよう進める。

質問 4月24日に小学6年、中学3年に実施する全国一斉学力テストは学

校間競争や格差拡大に子どもや親・教師を駆り立てるもの。参加せず、参

答

全町的な理解、予算配分が必要

加しても結果を公表せず、どの子も楽しく学べる学校環境を守ること。

教育長 いくつかの配慮事項があり、個々の市町村や学校名、学校毎の公表はしないので、他校との比較は想定外。どの子も学校に行きたいと思う環境にしていきたい。